林業機械に万全のサポート体制

サービスカレッジ 林業機械コースを開講

住友建機では当社サービスマンを対象に林業機械の整備技術を専門にしたサービスカッレッジを開講。お客様への満足度向上のため、さらなる技術向上を目指して取り組んでいます。

迅速対応の部品供給体制を確立

お客様からのオーダーへ速やかに対応できるよう、林業機械アタッチメントの補修部品を弊社部品センターに常時在庫。迅速かつ確実な供給体制を確立しています。

住友建機の林業機械 LINEUP

ハーベスタ仕様
SH135X-6 25SH

ハーベスタ仕様
SH75X-3B 20SH

ハーベスタ仕様
SH75X-3B 20RHS

ハーベスタ仕様
SH135X-3B 25RHS mkⅡ

フェラバンチャ仕様
SH135X-3B

プロポ仕様
SH75X-3B

木材グラップル仕様
SH135X-3B

スミマックス仕様
SH120LC-5SM

マテリアルハンドリング仕様
SH120LC-5MH

バックナンバー

森友 SHINYU vol.04

山崎木材
広島県
SH135X-3B

美山町森林組合
福井県
SH135X-3B

群馬県森林組合連合会
群馬県
SH120LC-5SM

北海道ニッタ
北海道
SH135X-3B

林業の本場から
トップ会談の舞台裏
フィンランド林業展体験記

住友建機株式会社 〒141-6025 東京都品川区大崎2-1-1（ThinkPark Tower）☎03-6737-2600
ホームページアドレス http://www.sumitomokenki.co.jp

1311©05T

SUMITOMO

森友

SHINYU vol.05

Contents

林業現場レポート

株式会社グリーン・シャイン
鳥取県
SH75X-3B
プロポ仕様

有限会社秋田グリーンサービス
秋田県
SH75X-3B
KESLA 20SH

つがる森林組合
青森県
SH135X-3B
KESLA 25SH

林業機械に万全のサポート体制

住友建機の林業機械 LINE UP

PHOTO:青森県西津軽郡鰺ヶ沢町

町をあげて林業の活性化に取り組む、日南町の木材供給カンパニー。

SH75X-3B（プロポ仕様）

株式会社グリーン・シャイン

住　所：鳥取県日野郡日南町生山357
ＴＥＬ：0859-82-0125
設　立：平成2年7月

製材工場の設立により機械化が一気に加速

広大な面積を持つ日南町はその9割を山林が占める森林に包まれた町。森は水や空気を育み、そして人や産業を育む大切な役割を担っている。そのような豊かな環境のなか、（株）グリーン・シャインは平成2年に造林を主とする組織として設立された。その後、植林、育林、伐木、搬出、作業路作設などを生業に順調に業績を伸ばし、平成20年から本格的に素材生産を開始。平成24年度の素材生産量は12000㎥にのぼる。

日南町の林業はここ数年、かつてないほど活気を帯びている。きっかけとなったのが、平成18年に森林業・木材加工業の振興、地域の活性化、森林資源の有効活用を図るため町内の森林所有者が中心となって設立された製材工場の誕生。（株）グリーン・シャインでは、全素材生産量のうち4割を同工場へ供給しているという。

「地域の林業を活性化するためにも、この製材工場を町ぐるみであげて育てようという考えに賛同し、材の供給役を担わせてもらっています。この製材工場ができてから、当社の機械化も一気に進みました」と語るのは、5年前から代表取締役を務められている平田社長。

平田広志社長

プロポ仕様は急斜面での作業も容易

素材生産を開始した当初はグラップルとスイングヤーダを各1台という構成だったが、現在ではSH75X-3Bを3台（プロポ仕様1台、ザウルス1台、グラップル1台）のほか、2台のハーベスタを所有しているという。そのなかで、オペレータからとくに人気なのがプロポ仕様とのこと。オペレータの山本さんに、その理由を伺ってみた。

「デモ機を持ってきていただいたときにレバーを触った瞬間、いきなり手にフィットしたことを覚えています。レバーのフィット感は作業するうえで非常に重要ですからね。それに、基本的にペダルよりレバーのほうが手だけで操作できるので使いやすいと思います」。

また、プロポ仕様のメリットを最も感じるのは急斜面での作業とのこと。「ペダルの場合はどうしても足を踏ん張りながらの作業になってしまい体力的にキツい。プロポ仕様なら指先だけで微調整が可能ですので、疲労度の違いはとても大きいですね。それ以外にも、グラップルとウインチの切り替えスイッチが手元にあることも便利だと思います」。

左からオペレータの山本重吉さん、松原尚久さん、手島慎司さん、松尾清廣さん

若者を育てこの町の林業の未来に貢献したい

残存木を傷つけないよう、できるかぎり路網による搬出を心がけている（株）グリーン・シャイン。そんな“森を大切にする気持ち”は“人を大切にする気持ち”にも反映されている。それを物語っているのが、就林を希望して同社の門を叩く若者の多さ。県内はもちろん、県外からの就林希望者も後を絶たないという。平田社長は、そういった若者を歓迎している。

「島根県や兵庫県から働きにきている社員もいますし、東京から問い合わせが来たこともあります。とくに県外へ募集をかけているわけではないのですが、ホームページを見て当社に興味を持ってくれる人もいるようです。現在当社には13名の社員がいるのですが、そのうち4名が20代の社員です」。

島根県との県境の町・境港から（株）グリーン・シャインに就職したオペレータの手島さんもその一人。「僕の生まれ育った境港は美しい港町なのですが、大学で山から流れる水が港を潤していることを知り、山に携る仕事がしたいと思いました。林業は僕にとって非常にやりがいのある仕事です」。

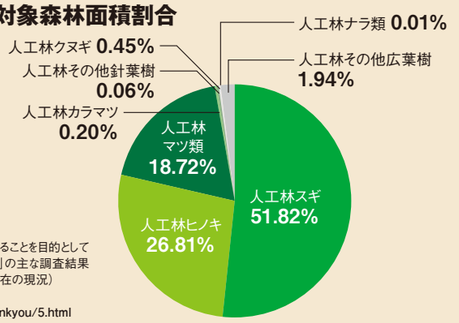
この地域は今後30年にわたり間伐材が潤沢に採れる環境にあり、さらなる生産量の拡大を見据えている平田社長。最後に、将来への展望をこのように語った。「今後は、全体として年間30000㎥の生産量を目指していきたいと思います。そのなかで林業に関心を持つ若者を育て、この町の林業の未来に貢献していけたら幸いです」。

●レポート：鳥取支店　西村寛一

鳥取県の樹種別計画対象森林面積割合

人工林総面積：139,136㎥
（人工林の主な樹種）

- ス　　ギ：72,097㎥
- ヒ ノ キ：37,302㎥
- マ ツ 類：26,044㎥
- ク ヌ ギ：621㎥
- カラマツ：279㎥
- ナ ラ 類：7㎥



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得ることを目的として平成19年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである（平成19年3月31日現在の現況）
引用元：林野庁HP
http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/5.html

早めの皆伐を行いつつ再造林を推進し、雇用を生み出しながら循環させていきたい。

SH75X-3B（KESLA 20SH）

有限会社秋田グリーンサービス

住　所：秋田県秋田市
　　河辺北野田高屋字神田304
ＴＥＬ：018-882-3150
設　立：平成6年4月

作業道は必要に応じて必要なだけつくる

昭和30年代から薪炭材やシイタケ原木の生産を行い、その後、素材生産業への転換を図ってこられた（有）秋田グリーンサービス。昭和の林業を知る佐藤國男社長は、当時をこのように振り返った。「昔は伐った木をソリや馬に乗せて運ぶような時代で、直径1mにもなる天然スギを6人掛かりで担いで山を下りたこともあったよ。でも時代の移り変わりとともに、林業も人力に頼る時代ではなくなっていったんだ。とくにグラップルの登場は大きかったね。あれで林業のやり方が一気に変わった」。

佐藤國男社長

機械化を推進しつつ、平成6年に法人化した（有）秋田グリーンサービス。現在は国有林と林業公社からの請負間伐を主業としており、素材生産量は年間24000㎥を誇る。そんな同社のこだわりのひとつが路網づくり。専務取締役を務める佐藤総栄さんは、路網に対するこだわりをこのように語る。

「秋田県では冬場の雨や雪が多く、あらかじめ作業道を作っておいても雪解け水で流されたり堆積物が溜まったりして非常に危険な状態になり、10年後には使えなくなってしまいます。そこで当社では、山に入る際に必要なだけ作業道をつくるようにしています。このように頻繁に道づくりを行っていますので、ザウルスは非常に重宝しています」。

佐藤総栄専務

ハーベスタの枝打ち能力に衝撃を受けて

現在、（有）秋田グリーンサービスではSH120-3 KESLA25RHSを始めとするハーベスタを4台、フォワーダ6台、グラップル5台、ザウルス2台、フェラバンチャザウルス3台、スイングヤーダ1台、プロセッサ1台という計22台にのぼる林業機械を所有している。「当社では林業の機械化を積極的に推進しているわけですが、やはり画期的だったのはハーベスタの登場ではないでしょうか。2007年に見せてもらったSH120-3 KESLA25RHSのデモは衝撃的でした。枝打ちをして出てきたアカマツを見たら、まるで製材したかのように曲がったところが真っすぐになっていた。本当に驚きましたよ」と当時を振り返る佐藤専務。それまで使用していたプロセッサに故障などの悩みを抱えていたこともあり、購入を決めたとのこと。

さらに、KESLAハーベスタの導入メリットは意外なところにも及んでいるという。「細かい作業ができるので、これに乗っているオペレータは作業後に山をきれいに後処理してくれるようになりました。これは、社長が常日ごろ口にしている“自分のあとに作業する人のことを考えて取り組むように”という考えにも合致するものです」。

また、同社が所有しているもう一台のハーベスタSH75X-3B KESLA20SHについても、オペレータの佐藤雅広さんは高く評価している。「安定性がよく、枝打ち能力も非常に高い。とくに無段階チルト機構はあるのとないのとでは大きく違いますね。急斜面に置かれた材を引き上げる際に無段階で角度を調節できることは、作業効率の大きな向上につながりますから」。

山の林齢と材積構成の平均化が今後のテーマ

素材生産業に着手したころは皆伐が多く、時代の流れとともに間伐が主流になりつつある現在。佐藤専務は、今が変化の過渡期と考えている。そんななか、林業家が最優先で取り組まなければいけないことは、山の林齢と材積構成を平均化していくことだと語る。

「現在の30～40年の山を育ててまとめて皆伐する方法では安定した木材の需給関係は保てません。皆伐した時点でまとまった需要があるわけでもなく、そこからまた30～40年は供給できなくなってしまうわけですから。山の林齢と材積構成を平均化していくためにも、早めの皆伐を行いつつ再造林を推進し、雇用を生み出しながら循環させていくことが日本の林業のテーマになるのではないかと考えています」。持続可能林業を目指し、（有）秋田グリーンサービスの視線は常に未来を見据えている。

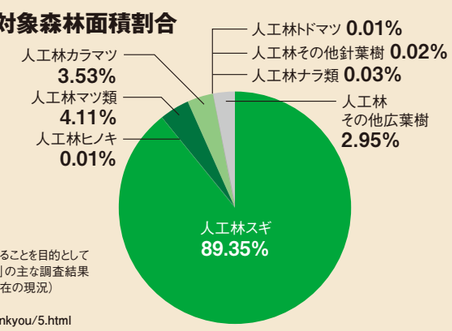
オペレータの佐藤雅広さん

●レポート：秋田支店　河野恵祐

秋田県の樹種別計画対象森林面積割合

人工林総面積：410,172㎥
（人工林の主な樹種）

- ス　　ギ：366,494㎥
- マ ツ 類：16,870㎥
- カラマツ：14,466㎥
- ナ ラ 類：111㎥
- ヒ ノ キ：31㎥
- トドマツ：23㎥



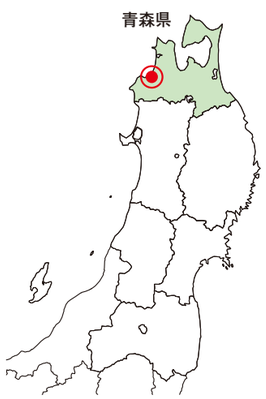
林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得ることを目的として平成19年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである（平成19年3月31日現在の現況）
引用元：林野庁HP
http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/5.html

機械化により雪山での生産性を拡大し、冬場の林業の活性化に挑む。

SH135X-3B(KESLA 25SH)

つがる森林組合

住　所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町
　　大字北浮田町字平野157
ＴＥＬ：0173-72-2436
設　立：平成11年4月



予算の許すかぎり機械化を推し進めて

平成11年4月に旧鰺ヶ沢森林組合と旧深浦町森林組合と旧岩崎村森林組合の3組合が合併し発足した、つがる森林組合。組合員は1600名を超え、県内でも中堅クラスの規模を誇るという。そんなつがる森林組合の林業は間伐を主体とし、平成24年度の生産量は協力会社も含めて20000㎥に達する。平成11年の合併当初は主に造林を手掛けており、その後、造林事業の減少に伴い林産事業へとシフトしてきたつがる森林組合。その変遷は、機械化を促進することにもつながった。

同組合の東海林管理部長は、機械化へのプロセスをこのように振り返る。「平成17年にグラップルとフォワーダを1台ずつ導入し、それ以降は予算の許すかぎり機械を増やしてきました。そして昨年、ついにハーベスタを導入することができました」。つがる森林組合がSH135X-3B KESLA25SHを導入したきっかけは、同機種が稼働している秋田県や岩手県の現場まで見学に行き、6名のオペレータ全員が実際に運転したことが決め手になったという。

東海林政美管理部長

無記名投票の結果、満場一致にて決定

「じつは、ケスラーを見学させていただく前は別のハーベスタを検討していたのですが、ケスラーを運転した6人のオペレータにどっちのハーベスタがいいか無記名投票を行ったところ、満場一致でケスラーだったんです。どちらを選ぶかは、いうまでもありませんよね」。オペレータがSH135X-3B KESLA25SHを指名するポイントとなったのは、ベースマシン本体の方向に向かって縦に送材できるので材の曲がりが見えること、測尺の精度が高いこと、周囲に危険が及ばないことの3点。導入後、SH135X-3B KESLA25SHのオペレーションを担当した舘口さんは実際に操作した感想をこのように述べる。

「今までは枝払いや造材をチェーンソーで行っていて、冬場は雪に埋もれてしまい作業がとても大変だったのですが、ケスラーが導入されてからは冬でもそういった作業が楽に行えるようになりました。それと、測尺が正確なので手直しの手間がかからないことや、枝打ちの力が強いので、ローラー式のように旋回をしながら送材しなくてもよいため誰でも簡単に作業を行える点もありがたいですね。最初はローラー式に比べて送材速度が遅く感じることもありましたが、枝打ち能力が高いおかげで生産性は同等レベル。むしろ、ストローク式は太い枝まで落としてくれるので、わざわざ枝打ちするために乗り降りしなくていいので助かります」。

左からオペレータの舘口純平さん、技師の鈴木宣登さん

これまで、冬の間は休業状態になることが多かったというつがる森林組合。SH135X-3B KESLA25SHの導入により、東海林管理部長は冬場の生産性向上に期待を寄せる。

「以前、雪山での作業中に測尺が狂ってしまったことがあったのですが、材に積もった雪をサッと落としてから送材したところ元の正確な測尺に戻ってくれた。冬場の生産性にも大きな可能性を感じています」。

安全を買えるのなら投資は惜しまない

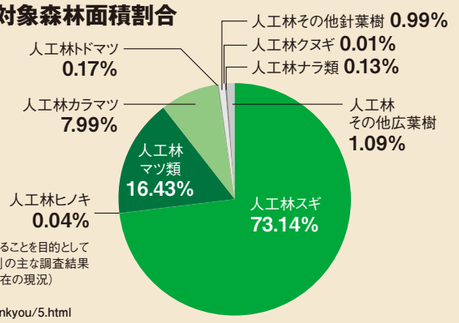
つがる森林組合のモットーは、何よりもまずは安全第一。その理念は、林業機械の扱いやメンテナンスにも貫かれている。「とにかく私は“安全がお金で買えるのであれば投資を惜しんではいけない”と考えています。機械のメンテナンスを入念に行うことはもちろん、普段自分たちでできる機械のケアはしっかり行う。たとえば当組合では、高圧洗浄機と発電機を現場に持ち込んで、作業後にその場で洗車するよう励行しています。泥が付いたままでは重大な傷などを見逃してしまいますし、グリスアップすることもできませんから」。

同時に、東海林管理部長は機械をきれいに使うための心がけとして“ぶつけたらすぐに直す”ことを徹底している。「ぶつけて傷付いても動けばいいという人もいますが、ぶつけてもいいという意識を持った時点で安全への意識も低下してしまいます。林業現場での作業ですので傷が付くのはやむを得ませんが、それを放置しないことが大切です」。冬場の作業を模索する同組合だからこそ、この強固な安全への信念は大きな意味と価値を持つ。　●レポート：青森支店　高橋靖雄

青森県の樹種別計画対象森林面積割合

人工林総面積：273,243㎥
（人工林の主な樹種）

- ス　　ギ：199,850㎥
- マ ツ 類：44,899㎥
- カラマツ：21,845㎥
- トドマツ：453㎥
- ナ ラ 類：368㎥
- ク ヌ ギ：36㎥



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得ることを目的として平成19年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである（平成19年3月31日現在の現況）
引用元：林野庁HP
http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/5.html